

撮影/文◎本誌編集部

Profile ◆よしおか すずむ
1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフショアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタップ、シーガーインストラクター。

◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします!

◀海面下にもコノシロが泳いでいるのが見える
▼魚探にはコノシロの反応がびっしり映っている

★ルアーのアクション、レンジ、巻くスピードなどを試しつつ、ヒットパターンを探す

▲22センチのダウズスイマーとほぼ同じサイズのコノシロ。シーバスは大口を開けて丸飲みする

◀大きなネットを使い、スパッとタモ取りしてくれた内田船長

◀握手を交わし喜びを分かち合う2人

デカイヤツを
トップで……



▲「今、アタったよ!」と悔しがめるヨッシー

ヨッシーこと吉岡進がエサ、ルアー釣りを問わず、様々な釣り物にガチで挑戦していく連載「ツリガチ!」。第7回は東京湾ホートシーバスのコノシロパターン。秋冬にかけて20センチ前後のコノシロを捕食し、丸まると太った大型シーバスをビッグベイトと呼ばれるとデカイルアーをブン投げて狙う。海面を割り大口を開けてルアーにアタックする姿に魅了されたファンも多く、最近人気の釣りだ。

11月中旬に釣行したのは東京湾奥横浜本牧のチャーターポート・シーウルフ。内田信吾船長が目指した釣り場は羽田空港滑走路の間近、多摩川河口。



▲ヨッシーが持参したルアーは大型トップウオーターでジョイントタイプのフローティングペンシル、ジャッカル・ダウズワン220(右)、S字系ビッグベイト、ジャッカル・ダウズスイマー180SF & 220SF

◎内田船長がシーバスを優しくリリース

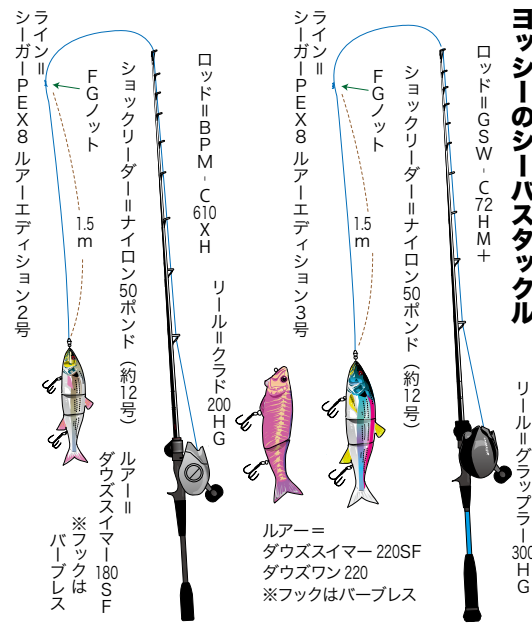
東京湾 ボートシーバス コノシロパターン

お見事!

アタったよ!

★タカハシゴーが釣り上げた74センチのシーバス。ビッグベイトで釣り上げると満ち足りた気分になる

ビッグベイト用シーバスタックル



▲バットパワーのあるベイトロッドに巻き上げ力に優れたベイトリールがおすすめ



▲左からダウズワン 220 (22センチ、約113グラム)、ダウズスイマー 220SF (22センチ、約100グラム) & 180SF (18センチ、約56グラム)



◀海面下20~30センチを泳がせてトゥイッチを入れて食べた

★70センチのシーバスをゲットした鹿島一郎さん。海面を割ってビッグベイトに襲いかかってきた

コノシロパターンの釣り方

◎大型トップウォータープラグのダウズワンは連続ジャークで首を左右に振りつつ、水しぶきでアピールするドッグウォークがおすすめ。S字系ビッグベイトのダウズスイマーは投げて巻くだけでも釣れるが、それで釣れないときは早めの巻きでアピールし、止めで食わせの間を作るストップ&ゴーが有効だ。

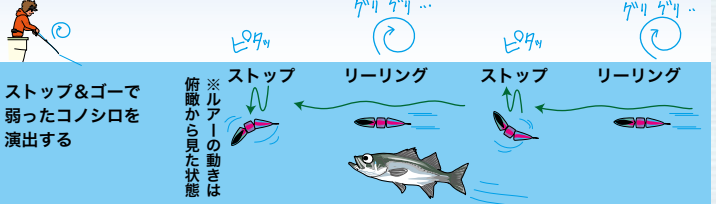


△リーリングスピードを変えてシーバスが反応するアクションを探す

【大型トップウォータープラグ (ダウズワン) の場合】



【S字系ビッグベイト (ダウズスイマー) の場合】



◀ビッグベイトをくわえたシーバスがエラ洗いで抵抗する

慢心があつたのかも
しれない……



▲船べりまでシーバスがルアーを追いかけてきたら竿先を突っ込んで8の字を描くと食ってくることも

水深5メートル前後のポイントに着すると、魚探にはコノシロの反応が表層から底まで映っていて、海面下にもコノシロの群れが見られる。上流側からドテラ流しでこの群れに近づき、旅客機が飛び交う下でキャスト&リトリブを繰り返して、シーバスの捕食スイッチを入れるためのアクションやレンジなどを探っていく。

今回は、コノシロパターンで実績抜群のS字系ビッグベイト「ダウズスイマー」に加え、大型トップウォータープラグ「ダウズワン」という新たな武器を手に入れたヨツシー。詳しくは62ページからの本編にて！



▲ダウズスイマーにコノシロが掛かってきた

#船宿インフォメーション

東京湾奥 横浜本牧 **SEAWOLF**
☎045-624-4887
(詳細は巻末の情報欄参照)

●料金=チャーター船1便3名3万円(4時間)、4万5000円(6時間)、6万円(8時間)
●備考=午前便7時、午後便13時出船。クロダイ、アジへも出船



▲2~3名での利用が最適な小型ボートで湾奥の様ざまな釣りが楽しめる
◀内田 信吾船長(右)

